夕刊
磐城新聞
五月五日發行

定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾錢（郵税拾五錢）
廣告料金 普通欄 金六拾錢 雜報欄 金九拾錢（五號十二字詰一行一回 場所指定一行增錢）
編輯印刷兼發行人 柏木哲 福島縣石城郡平町田町十六番地 〃
發行所 磐城新聞合資會社
登錄交信略（タイライワキ）平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

六號記事（四）
白木英尾

文士の諏訪三郎氏、この人は本縣出身の人だが去年の夏に小名濱海岸で一週間ばかり滯在してゐた。その時の原稿が確か令女界かに書いた樣だつたがはつきりしない。絵具なんかもいぢつてゐた。何が一番印象に殘つたかと尋ねたら『水瓜のうまいのと朗かな海の子供たちだ』と言つたそうだがいかにも諏訪氏らしいと思つて聞いた。只今は千葉縣市川町に住んで居られる

この諏訪三郎氏が今度市川町の小學校から郷土讀本の中へ何か書いてくれと頼まれた。郷土讀本つていふのは平町の各小學校でも用ひてゐるからお解りと思ふがこれは最近全國的な試みで兒童の郷土愛を釀成する上に最も大切なものなそうだ。市川町でもこれを新しく編纂して兒童へ課することになつたらしい。それで諏訪氏も『郷土を持つ我が愛する少年少女たちに讀んでいただきたい』ため

第一課 懷しき郷土

と題して一文を草した。これに就いて諏訪氏は面白いことを言つてゐる。

『この作文は去年の夏、小名濱海水浴場で濱の子供達がいかにも朗かに元氣よく、濱―郷土―の自慢話しを、私に話してくれたのを、いまだに樂しく記憶してゐて、そのことを思ひ出しながら書いたのでした。純眞な子供達から、無邪氣にそして力強い、郷土を愛する言葉を聽くことは、私にたまらなく朗らかな感じを與へてくれます。』

その時子供たちがどんなことを喋舌つたのか知るよしもないが氏の『懷しき郷土』の中にはかなり頭のいい負けん氣の少年が三四人出てくる。背景こそ違つてゐても言葉の内容はどうやら『濱の子供達』のものらしい。

諏訪氏自身は『町ではついぞ見かけない一人の青年書家』になつてゐる『一枚の油繪が、やうやく描き上げられたとき』一人の子供と青年書家の會話が始められることになつた。その子供は『小父さん』と呼んで初對面の會話から『今度また、梨の花の咲く頃にくるといゝですよ。とても奇麗ですから』とその再遊をうながせば他の子供が『それからね、蒔がちきに熟しますから、それも寫生にくるといゝね』『そんなことを言つたら、江戸川の景色もすきだせ』それからは『僕はどこが……』『それよりも僕は……』といつた調子で可愛いゝお國自慢がある。子供はまた『市川で出來る梨は日本一おいしい』『蒔だつて日本一だ』と我が郷土を『日本一いゝ所なんですよ』としてゐる。そこで青年書家は『他の町や村にだつていゝ所があるよ!』と『子供達がどんな返事をするかと、ためしに聞いて見た。が子供たちは、まごつくどころかにこ〳〵しながら、元氣よく異口同音に、『それは、僕たちだつて他の町や村のよいところを知つてゐますよ。それから自慢をすることは、あまりよいことでないのも知つてますよ。でも僕たちは、僕たちの町が、日本中で一番好きなんですもの。ね、小父さん、自分達の郷土を愛するのなら、どんなに愛したつていゝでせう』實に立派な返答なのに、青年書家はすつかり感心してしまつた。

この感心された子供が小名濱に居るに違ひない。小名濱校の郷土教育はこゝまで進んでゐると言へよう。何はともあれ諏訪氏が小名濱から素材をとつて書いたことに或るほゝゑましさが感じられる。（この稿終り）

潮聲 第四十三集
壬申四月號 席上互撰

山吹

山吹や春ととのひし小柴垣　萬袋
遠足の小旗に山吹のゆられけり　同
山吹に明るきどろや一ところ　孤舟
山吹に明るき事務所訪れけり　同
山吹に机の埃拂ひけり　逸郎
山ぶきのしたたか散りぬ垣の上　閑外
飛びて咲く山ぶきに日長かな　秀勝
明川の月に菜洗ふ濃山ぶき　石城
山ぶき折つておくれし渡舟哉　千里

がけぶちの寺
……（童謠詩）……
原田小太郎

お寺の
庭は
しんとして
淵に
しだれた
さるすべり
くぐりを
あけて
お和尚さん
小かにの
まるい目
みて御座る。

時代警語

○家臣の儀は將の恥なり…………（山鹿素行）に小山田高家が青麥を苅取つて禁制を犯した時に新田義貞は高家の家を點檢させ馬や物具は立派に用意あつても一粒の米の無かつた事を知り其罪を罰せず却て金品を贈つた

拈華微笑

内に金無く外敵侵入、文字通り無い憂外患な平町の一部商人
◇
アブレ勞働者を霑す。五月雨ぢやない復舊工事
◇
八百米機走で第三校が大降參、飛んだ誤植だ
◇
遺書のレコード破り『借金は寄附金で返して呉れ』
◇
あす立夏。新綠に風薫る

社會の今日

5月6日 △足利義滿薨ず（應永一五）△朝鮮使臣始めて江戸へ來る（慶長一二）△江戸幕府制札を撤去す（明治元）△日支法權交涉再開、支那側我が新提案を拒絶す△廣東側に呼應して北方反蔣派も起つ△英國の名飛行家キッドストーン氏ナタールで墜死（昭和六）

○
かたく抱けばあゝはじらひの肩細め、五月の丘のあをい戀人　大谷吉正

講談 お蘭陀お蝶
(21) 渡邊默禪作 布施長春畫

『傾城は賣物、買物、氣ままにさんせ、惡女の深情けとやら、彼の女子には我もとんと、いやけな差してゐたところ、幸良い客衆な附いて我身に見替へて呉れるならばア、もう〳〵十年が程命の延びる、今宵よりは樂々と手足なのばして寢まることがなりまする、よきようにとの返辭ぢやわい』

『えッ！五郎さんがその樣な事を』

薄雲は顏を擡げた、ひそめた眉に多少の疑惑

『そりや眞實でなうて何としようぞい』

側から火入のお長が口を添えた。

『私の眼にもよう合點ないく此頃よりどうやら腑に落ちぬことばかりぢや、彼の素振りでは五郎平さん、若しや太夫に愛素づかしを』

と雲を見据へて

『捨てられた跡の泣言は餘り見好いものではおざんせぬ、太夫今のうちに牛を馬に乗り代えて薄情男を見かへしたがよいわいな、こなたは公方さまの御身内、天下の金錢は皆我が物、正一位の位も稻荷さまとは違ふて、それずんと天井に突き拔ける冠さまぢや、御氣に召せば御臺樣、鋲打物のお駕でがな下へッ下へッと土下座なさせる樣に、えらう出世がなりますぞい、百貫の低當に置く編笠さへどうやら持て居さうもない貧乏者の五郎平さんとは、オホ……所詮較べものにはならぬぞいなオホ……』

薄雲は二人の話を味はえるやうに寧ろ疑ふ樣に、あざ笑ふやうにじつと考へてゐたが、やがて信つとした調子で

『それ程迄に我身を思ふて下さるお二人さん、仇には開かぬ、お情けでがなござんすがその事ばかりは平にお斷り申します』

『え！斷るとな！』

紹庵は猫の樣な眼

『あいな、五郎平さんは假令どの樣におしやんしてもわせじの心は鐵一旦下ろした錠は將軍樣の御威光でも滅多に開けさせることはござんせぬ』

『や！』

二人はあきれた

紹庵は極めて手輕く思つてゐた、何の是しきの悶着急所を一押しぐつと抑へたなら直ぐにも埒が明くと己れの腕を賴みに見侮つたのが實際に當ると、どつこい爾うはいかぬ、小面憎い程片意地を張つて拗くれてゐる薄雲の耳には、いかに得意の人情哲學を講釋しても利害得失論を說いて聞かしても一向に無感覺の牛の前で琴を彈くやうな始末に二階からつげる目藥でも猶且こんなではあるまいにも地烈つたいやら、忌々しいやら、可し今に見ろとの捨せりふで不得要領の物別れとなつた

勿論問題は小さい、單に『振つた、振られた』だけのこと花柳社會にあつては、茶柱が立つた倒れたといふ出來事として甲乙がないが、振つた人も振られた人も各々尋常以外の變り者であつた所に第三者の好奇家が傍から彌次り立てたので、漸々騷ぎが大きくなつた、波瀾が高まつた三面記事の艶種では濟まなくなつた、面白いのは其のコントラストである。

一方は太陽をも射て落す勢力を弓にして弦音高く虚榮の征矢を唸らせる德川御連枝の貴公子、一方は弱い女性も爾も弱稼業籠に飼はれたあや鳥の羽叩きさへ自由にならぬ遊君である。あなたは、權、力、金、智、あらゆる武器の外にお味方は雲の如く旗靡物をなびかしてゐる、こなたは只一人の町奴五郎平が後楯、それさへ嘘か眞か我を袖に卑怯らしい音を吐いたどいふ危いのはうす雲の位地元來此の角力どんと勝負にはならぬ。

でも彼には何か賴むところがあつた、一念不動の自信があつた。

舊四月一日
金曜 丁卯 佛滅 開 元宿
五月六日

諸判定應需 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 才力充分なりとて餘事に涉るは控ゆべき日▲二黒の人 盛運に當り大いに奮發すべく計畫成就すべし▲三碧の人 薄利と雖輕視せず小を積みて大と爲すに吉▲四綠の人 希望は夢と消えて跡なし常業を守るが安全▲五黄の人 用心堅固は地位の安定を保ち發達の望あり▲六白の人 衆人歸服して大事をも遂ぐるに至る幸福日▲七赤の人 うぬぼれと無理は事を破るの基爭論訴しよう亦注意▲八白の人 微を積み細を集め終には豐富の喜びある日▲紫九の人 靜かに正路を辿らば吉爭論及口入れは注意

ラヂオ
……六日…（金曜）…
仙臺 JOHK

△前六、三〇A ラヂオ體操
△九、〇〇A 氣象通報
△九、一〇 料理獻立（ヘリングビテンダロイン）朝倉長吉
△一〇、三〇B 家庭講座 日用品値段（洋菓子るい）
△正午A 時報
△後〇、〇五A ハーモニカと管絃樂 川口章吾 コロナーオーケストラ
△〇、四〇A ニュース 氣象
△一、一〇 六、〇〇A 運動競技（六大學野球リーグ戰試合狀況）
△二、〇〇A 婦人講座（女性の分擔）法學博士寬克彥（野球放送なき場合に限り）
△四、〇〇 六、〇〇A 角力中繼（大日本相撲選手權大會狀況…三日目）但し野球試合ある場合は變更あるべし
△三、四〇A 氣象
△四、〇〇A ニュース
△六、〇〇（子供の時間）『東西早廻り放送リレーレース』
△六、三〇A 英語講座（初等科）岡倉由三郎
△七、〇〇A ニュース 氣象 花の便り
△八、〇〇H 講演（戰爭と防彈チョッキ）東北帝國大學總長理學博士本多孝太郎
△八、〇〇N 俚謠（安曇節）信州大町連中―唄…壽三代 同…金福 三味線…桃若 同…とし香 太鼓…秀丸
△八、一〇S 俚謠（彥山踊）福岡縣田川郡彥山村有志
△八、二〇A 放送舞臺劇（忠臣藏六段目）歌舞伎座より中繼
△九、三〇A 時報
△九、三一C 奉天より
△九、四〇A ニュース 氣象

廣告

上田醫院 平南町 院長 上田耕作 電話 一二九番

前田醫院 院長 前田清美 植田町電話一二四

木村醫院 平町六丁目 電話 三〇九番

夜間診療 松村胃腸性病科醫院（平南町電話一〇七番）
胃腸 内科 十二指腸虫病 專門 內科部
梅毒 淋病 皮膚病 婦人病 專門 外科部

踏デモ叩イテモ ―絕對コハレヌ時計硝子―
丸型時計入替 二十錢
角型時計入替 四十錢
秋山時計店 平驛前

難波醫院 內科 一般 醫學博士 難波睦 平町大町新川端（電話五〇二番）

めそ丼 金參拾錢
大衆向うな丼 金參拾五錢
特上丼 金五拾錢
蒲燒（二人前）金五十錢
右弊店特々の勉強振り御試食の程を御願申上升
江戸川うなぎ食堂 平舘前通り 電話六七七番

高久病院 平町田町（電話五一三番）
醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹[illegible]雄
內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

横濱植木株式會社特撰 草花、蔬菜類 優良種子 各種賣出し致しました。
農園藝や く品の御相談は 西村屋藥局 電三番

市原醫院（入院隨意）電話一一四番
內科、小兒科 市原卯太郎
外科一般、婦人科 市原陸郎
外科、梅毒、淋疾 皮膚病 市原三男
平町田町本通

生花教授 家元龍生派池坊 生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三 天水庵華道教授 岡田華悅

お醬油は……ヤマフル
味噌 醬油 たひら正宗 鰹節 食料品
鹽屋 山崎合名會社 福島縣平町 電話（營業部一〇番 本店二七番）

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

專門大家が畢生の苦心
絕對の『治淋藥を完成』强力の注射原藥を內服さす。
創製者 間部薫
責任保証 リン病 消渴 間部淋藥
初期にてカミいたみ、コシケある方は勿論ツマラヌ家傳藥危險な注入藥熱療器等に懲りた慢性患者は必ず此藥の卓越性を發見んす
淋菌は此の藥位强烈でないと死滅しない
（特長の一）此藥は性病ひ尿科の大家特に淋病消渴治療の權威東京銀座―間部醫院長間部かほる先生が畢生の研究の結晶なり
（特長の二）先生が病院で毎日患者に使用してゐる獨特の注しや原藥を主劑として之に洋藥漢藥の粹が配され殺菌力强大なり
（特長の三）服用後强烈な殺菌力を有する注しや原藥が全部尿に混り放尿毎に尿道粘膜下の深部の淋菌迄撲滅す
（特長の四）患者じ身の洗じよう注入は慢性やコウ丸炎又は婦人ならばうこうカタルになる恐ろしい危險があるが本劑は然に內部から尿により洗じようされ菌を一掃するから絕對その心配がない
（特長の五）じよう劑の藥効が强いに絕對副作用なく安心して服める
【註文】は來訪カワセ振替代引でまうし込次第急みつ送す
【藥價】一週（輕症）參圓 惡性（五圓）送料十二錢
（各種有名賣藥アリ）
縣下一手販賣店 星製藥磐城配給所 ホシチエーンストアー平支部 平町三丁目舊郵便局隣 電話四二九番

セダン揃ひで！
貸切專門の！
昭和タクシーへ
三四三番（サンシミ）

出張販賣に脅かさるゝ 哀れな立場の地元商人

小資本と幼稚な戰術を以て 如何に對抗するかの深刻な惱み

平町の各商店は近年大都市に於ける百貨店及大商店の地方進出に壓迫され從來の小資本と幼稚なる販賣戰術を以てしては流行品の取入良品の格安提供其他到底之れに對抗する事が出來ず漫然その成り行きに委す外ない狀態であるが平町役場最近の調査に依れば一月以降之種の出張販賣は東京九善書店の書籍販賣を筆頭に大小二十餘回に亘り其都度地元の小賣商人を尻目にかけ何年來の得意筋を思ふ存分蹂躙し殊に瀨戸物商の如きは最近全く外來の十錢均一店に獨占された形で例年の賣例から今夏も再た之等の怖るべき商敵の侵入を豫想せねばならず地元商人の立場は實に寒心に堪へざるものあり博覽會期中各府縣の出品卽賣に因て被つた影響と共に相當考慮すべき問題なるに拘らず地元の商人中往々之等の影響を介意せず案外無關心の狀態に在るは時節柄眞に齒痒い極みである尚ほ之に關し某呉服店主は語る

我々同業者に及ぼす之種の波及は決して從來の偸安を許されぬ狀態で彼等は百貨店、大商店の欠點であつた『廣いが淺いサービス』を漸次各部門の專門化に努め小賣商人の强みであつた專門店としての領域を奪ひつゝあるは地方の我々にとつて正に恐るべき戰術である而も從來の如く職拂ひ品或は棚ざらし品は全然其店で處分して了ひ賣殘品を地方へ廻すと云ふ樣な非現代的な手段はとらず最初より地方向の品物を問屋から仕向け地へ直送し所謂制限販賣なる名稱の下に最も大衆的な安價な必需品を石鹼半打十五錢キヤラコ足袋二足十五錢友禪モス一丈物六十錢、割烹着五十錢と云ふ具合に原價を割る安値で提供し之れによつて一般の購買心を唆ると云ふやうな機敏な商略を縱横に發揮さるるので地元の商人にとつては之れ以上ない恐怖である。云々

災害復舊工事で 浮び上る勞働者

近日中續々着手

平土木監督所管內の六年度災害復舊工事道路十一ヶ所河川七ヶ所橋梁廿八ヶ所海岸二ヶ所總工費十一萬圓內△仁井田川(大野村戸田)△夏井川(神谷村鄕)△藤原川(磐崎村藤原)△鮫川(川部村瀨戸)蛭田川(勿來町坂井、同杉木、川部村瀨の三ヶ所)以上河川改修の全部工費一萬二千圓は今五日午前十一時から同所で縣土木課員立會の上入札を行ひ直に着工する事に決したが殘りも今月中に入札をなし起工すべく土木工事の閑散期に入らんとしつつある折柄勞働者を潤す事甚大なるものあるべしと觀られてゐる

近く展開さるゝ 春繭買收戰線

茨城縣是製糸愈々進出

十日頃から一齊に行はれる郡下の春蠶掃立豫想は一萬枚內外で三割の激減と見られて居るが愈々今春から平町に進出した茨城縣是製糸は七千枚を買收する計劃の下に夙くも仲買人を增員し生產家に對し積極的運動を開始したので片倉製糸及販賣利用組合で極力既得權を維持すべく目下熟議を重ねつつあり彼之今春蠶期は激烈な鼎立の爭奪戰が演ぜられるものと觀られて居る

少年消防で 馬簾購入

平第一の試み

平第一校では今五日今春高等科卒業生の寄附金を以て少年消防隊の纏を購入し元氣を鼓舞する事となつた

簡保加入勸誘の 主力を農村へ

平の開拓を了つた平局

平局では其後も引續き大童になつて簡易保險加入者の開拓に奔走中であるが解約增加の爲一進一退の狀態なので博覽會の開館を俟ち既に開拓の餘地なき平町を除き最も成績不良の高久村をはじめ管內各村に宣傳映畫を公開する筈であるが加入有資格者數に對する現在の百分率次の如し

平四五、飯野二八、平窪二七、神谷二五、好間二五、高久一五

巡查試驗に突擊して

ルンペン受驗生の手記(2)

◇午前の算術作文の前哨戰に百四十二名の受驗戰士中約百名は力戰の効なく惜敗し歸り、朝の混雜に引更へ晝食時の控室の閑寂さ洪水に洗はれた跡の如き一抹の淋しさが犇と感じられる

◇親友同志で受驗に來た人達であろう、一人は前哨戰に勝ちて午後の試驗に殘り一人は敗れて歸るのである、敗れて歸るその人が歸り際、殘る友の肩を掴み『君、僕は歸るんだ。どうか僕の分迄確り戰つて吳れ給へ、賴むよ』。勵げまされたその人は返辭どころか慰める言葉も出ず、歸る友の手を固く握り無量の思ひを以て之れに答へるのみであつた。噫試驗場なればこそ見るこの悲愴な情景に私は二人の胸中を察し意生地なくも溢れ出る熱涙をどうすることもできなかつた。丈夫涙なきにあらず、遂に男泣きに泣かされてしまつた。こうした哀話を孕みつつ午後一時再び戰ひの火蓋が切られた。

國語　一時間

第一問題は試驗官の讀み上げる文章を書き取るのである。二回以上は讀まぬ、或る受驗生が一回お讀み下さいと願つて叱られたのも笑へぬナンセンスであつた。第二問題は熟語の意義解釋と讀解とである、大分常識を加味した問題であつた。故に國語教科書のみでなく廣く雜誌新聞にも眼を通す必要あることを感じた。

次が　地理　歷史

從來の巡查試驗の地理、歷史問題は各れも本邦の大要であつたが、今回の試驗には重箱の隅をつつく問題も一二あつて相當受驗生を惱ました。試驗官の方では陳腐な問題では試驗擢れの所謂山かけが功を奏する恐ある爲受驗生の意表を衝いて斯くの如き問題を選びしならんも試驗擢れならぬ自分等にも頗る打擊であつた

百四十二名中から 選り拔かれた七名

平署で受驗の巡查合格者

本縣の今年度第一回警察練習所入所試驗は既報の如く去月八日縣下四ヶ所で執行したが受驗者は定員の二十六倍といふ激烈な競爭を演じ結局三十名の合格者であつた、尚ほ平署での受驗者百四十二名中合格者は左の七名である

鈴木武雄、飯島俊祐(大久)渡邊弘、鈴木芳敎(飯野)國安靜行(植田)佐藤貞雄、堀川延夫(植田)

縣東部三等局長會

仙遞の主腦部が出席 今明平町で開催

縣東部三等郵便局長會は五六の兩日午前九時から平署會議室に於て開催約七十名出席仙臺遞信局監督、庶務保險各課長から左記諮問あると

△簡易保險契約の解約失効防止に關する良策△從事員の福祉增進並上下の融和施設には各局に於て現にとりつつある方法及最も適切と認むる方策

新綠に風薰り 明六日夏は立つ

本當の皐月氣分が出やうご 小名濱測候所の觀測

色彩の世界、萬華鏡の天地物皆生々躍動の氣に滿つる五月に入つてからは先ごろ迄のやうな陰慘な天候不順も無く、街を行く金魚賣りの澄んだ聲も漸く初夏の氣分を唆るやうになつた。松ケ岡の躑躅園を縫ふパラソル、氣の早いストロー、ハツト。愈々明六日は立夏で天候もどうやら落ち着いたらしい。明立夏の天候に就て小名濱測候所では語る

今夜(五日)から時々驟雨性の雨があるも、さしたる事なくて霽れる見込である。既往半月間の氣溫を見ると例年より〇。五度の低溫であつたが氣壓の動きが大分從來と變り始めたので之を機會に本當の初夏氣分が出て來るかと想はれる、何れ茲兩三日經過して見無いとはつきりした事は判らない

第三棧敗る

けふの八百米繼走

磐中第三十四回運動會は今五日午前八時から皐月晴れの高月台上に於て千余名の健兒により開始された。各種競技中の呼物である小學兒童の八百米繼走は內郷第三棄權し午前十一時二回豫選の結果

1(二分十一秒五分の三)平第一　2草野　3勿來　4豐間

1(二分十二秒)好間　2小名濱　3平第三　4飯野

の順で必勝を期した平第三校は惜くも敗れ平第一、草野、好間、小名濱の四校が決勝戰に殘つた

(午後二時稿)

借金を苦に鐵道自殺

寄附金で返濟賴むとの遺書 三十歲前後僧侶態の男

今五日午前七時三十四分平驛着常磐線旅客列車が植田勿來驛間錦村地內を驀進中飛込み兩肢を轢斷され自殺を遂げた三十歲前後僧侶態の男あつたのを植田署員が檢視したが附近に殘された『借金四千圓は寄附金を募集して拂つてくれ』の意味の遺書があり宛名も差出人も同じで富岡町上郡山前崎四九堀川義重とあつた

純眞の美な殿堂 けふ磐中で繪畫展覽會

朝來參觀者多數

磐中X會展は今五日の運動會とならび開催し頗る人氣を呼び觀覽者絕へ間なく可なりの雜踏を呈したが小學兒童作品中X會獎勵賞は平第三、美友會同賞は小名濱校三年鈴木完治が獲得した、磐中生の分次の如し

一年北野正明、二年川島正己、三年菊地光國、四年林武義、佐藤文雄、野木源一郎、廣澤榮太郎、小幡桂三、吉川三郎、五年鈴木武、水野茂松、村山正吉、大內謙二郎、國玉喜輝、庄司昂、美友會賞鈴木武

各地情痴ニユース

△死んで未來を　靜岡縣田方郡上狩野村湯ケ島山林中でカルモチン心中を企て苦悶中の男女を發見大仁署から係官が出張佐藤病院に收容手當を加へたが兩名とも生命危篤、右は京都市下京區中堂寺前二五淺野さと方伊藤敏秋(三二)同市下京區花屋町西入ル櫻井こと子(一九)と判明した

△黑髮を斬らる　姬路市竪町キャバレー紅梅方北隣の屋上で髮を振亂した美人が悲鳴を上げて救ひを求めてゐるのを姬路署員が發見取調べると右は前記紅梅主人中村護六(三六)の情婦、上谷きくの(三二)と云ひ護六と痴話喧嘩の末黑髮を切られ前額部左顳部を殴打されて逃げ出したものと判明した

△活辯を慕ふて　兵庫縣津名郡中田村池の內藤田音松孫娘光子(二六)は本家へ行くとて家を出たまゝ歸宅せず一方同女の机の抽出を調べたところ三原郡福良町活動辯士橋森駿(三三)よりの誘ひ手紙を發見したので駈落したものと志筑署へ保護方を願ひ出た

△巣鴨宮仲心中　東京市外巣鴨町宮仲二一六四大島七郎右衞門方二階同居人金倉四郎(三二)は豫て戀仲である市外滝谷町櫻ケ丘六三日本國際汽船會社重役廣瀨隆吉四女とき子(二三)と催眠劑を多量に嚥下し苦悶中を家人が發見應急手當を施したが兩人共生命危篤、原因は添はれぬため

△今樣八百屋お七　阪神沿線魚崎町七二八醫師數豐方女中丹波生れ高木のぶ(一七)は附近の某と通じしば〱密會しては樂んでゐたが同家が非常な嚴格な家とて無斷で外出を許さないところから矢も楯もたまらず八百屋お七の故智を學び淺はかにも同家に放火したが大事に至らず消し止めた

平町の 躑躅宣傳

あす委員會で協議

櫻が過ぎた松ケ岡公園は日一日生氣頓に躍動する新綠の天地に變り眞紅、淡紅、紫等々三百餘種二千餘株と誇せらるる躑躅が赫焉として燃ゆるが如き一大美觀を展開し始めたので平町では既報の如く見物人の人出を唆る爲例年通り自慢の繪はがきで各方面に勸誘狀を差

平區署式罰金

運轉手の過失傷害、賭博、狩獵違反。喧嘩等々

△豐間村大字薄磯自動車運轉手政井貴松(三九)は一月二十三日貨物自動車を運轉し高久村地內縣道で荷馬車を避けあやまり乘客金成幾次郎を道路上に顚落せしめ三週間の傷を負はせ五十圓△平町字番匠町居住同町仲町生れ無職大關佐吉(三六)は昨年十月二十五日同町二丁目道路で赤坂菊彌を殴打して顚頂部に傷害を負はせ五十圓△同材木町古物商横田平藏(五五)は二月十七日より三回に亘り買受け品の帳簿記載を怠り三十圓△湯本町字三函窯職竹內芳之助(六八)は一月廿日自宅で鈴木寅雄と口論の末山刀で斬付け十日間を要する傷害を加へ五十圓△浪江町字鳥喰日雇西內一(三二)は無免許で昨冬より本春へかけ幾世橋地內で挾を使用しヒワ九羽を捕り十圓△平町柳町鑛山業坂田順次(四二)は赤井村福島炭鑛第一坑の石炭採掘を請負中一月十四日頃使用人の使つた爆藥を第一坑事務所內に貯藏し卅圓△浪江町大字權現堂理髮業石上幸春(三〇)は獵無免許で三月六日笹世橋村で挾を使用しかはらひわ二羽を捕獲し十圓△湯本町字寶海農日野利春(三〇)は三月十日同町區有高倉山林內に於て焚火し約九反歩を燒き二十圓△上遠野村自動車運轉手櫛田啓一(三二)は一月二十日平町胡摩澤地內で箱崎ツルヤのリヤカーに衝突せしめ全治二週間を要する打撲傷を負せ三十圓△湯本町字天王崎自動車運轉手橋本能藏(三二)は一月十八日把手故障を充分修理せず同町國道で石垣に衝突した側に居た石山七郎に全治二週間の傷害を負せ三十圓△荷路夫村農大和田トク(三二)は去月六日焦灰の不始末から住宅一棟及隣接の松崎一郎所有の山林三町歩餘を燒き三十圓△四倉町田谷榮助(三二)染谷芳之助(三三)中野豐(三四)土古仙吉(一九)の四名は一月二日前記中野方で花札賭博を開帳し各十五圓、以上此程平區で各々略式罰金の言渡あつた

艶罪黒白

◇現代人にして、戀の味覺を知らないものは、ないであらう。現代人にとつて、戀愛はパンの如く、必要にして且必要なものとなりつつある。戀愛を以て人生の全部とするのは暴論であるかも知れないが少くともその最も重要な幾部分かではある◇われわれは、この戀を疎略にとりあつかつてはならない。なぜならばさうすることは、人生の最も重要な幾部分を冒瀆することに終るからだ。今日まで幾多の女あさりに飽きた酒に爛れた男は。すさみ切つた藝者はこの問題を休驗してきたが、しかし、も早、この問題は古いといつて捨ててしまふものはない◇つれに古くして新しい問題—それは戀愛だ。私はこのつれに古くして新らしい問題を滿更馬鹿でもないこの頭の中で解剖しようと思ふのよ相馬時代の類型的おのろけや湯本時代の失戀物語りではない事よ◇例のま。す。み。の奴。一升呷りつけた上その氣焔のスゲエこと。內氣な客は虫を出してしまふぜ。

○……○

草野農事講演會

村農會主催の下に明六日午前十時から村公會堂で開催、講師は松本穀檢平支所長、伊藤農試分場長其他で午後は質疑應答會を開くと

錦村農會

九日午後一時から小學校で實行組合會議を開き本年度豫算打合せ後過般の農產物品評會褒賞授與式を行ふと

平商身体檢查

五、六兩日市原校醫により執行

會と人。一束

磐城セメント四倉工場健康保險組合では昨四日組合員の表彰式を擧行縣から明智健康保險課長が出張臨席

した

平町田町岩本重雄氏等主催の成田講百餘名は今曉零時五十三分平驛發で出發

內郷村長野本龜之助氏外村議五名は福岡縣地方炭鑛視察のため今五日出發した

平聯管內理髮業組合總會は十日午前九時から平聯會議室で開催決算報告、優良組員及徒弟十名の表彰を行ふ

盜難屆一件　好間村

北好間山崎三〇織機職長澤武雄方では簞笥中の縮緬女羽織外衣類十一點價額四十五圓を。平町南町六〇雜貨商大泉德四郎方では現金四圓五十錢入手提金庫を何れも此程竊取されたる旨屆け出であり目下平署で犯人嚴探中

九年越の家賃詐取　四倉

町鈴木治作(五六)は植田町元町所在茨城縣大宮驛前常陽酒造會社所有建物を自己所有の如く見せかけ植田町の赤坂蒔藏に貸して大正十二年十一月より昭和四年七月三十日までの家賃を詐取し尚ほ家財道具等八十圓を横領したこと大宮署に探知され目下取調べ中であると

平町要事錄

△出　生　八幡小路七六埼玉縣北足立郡浦和町五六一齋藤二郎二男悠

△死　亡　一丁目二一般塚敎造(四三)　研町一二淺井ノブ(四三)

外務社員募集

年齡二十七八以上四十四五位迄妻帶ニシテ

奮鬪ノ士五名採用ス

固定給ヲ支給致シマス。履歷書御送附被下い。面會日御通知致シマス

平町字鍛冶町二十一番地

東洋生命特務支部

支部長　小林房吉

內科　小兒科　花柳病科　入院應需

藤沼醫院

平町紺屋町　電話平五〇七番

吉田眼科病院

平町紺屋町